

令和5年度 第1回神戸市いじめ問題対策連絡協議会

日時 令和5年11月15日(水) 9:00
場所 神戸市総合教育センター 701号室

議 事 次 第

- 1 開 会
- 2 委員紹介・委員委嘱
- 3 委員長あいさつ
- 4 協議・説明事項
(1) 本市のいじめ問題についての概況
(2) 本市のいじめ問題への取組
- 5 委員長総括
- 6 事務連絡
- 7 閉 会

資 料

- | | |
|-------------------------------|-----|
| ・令和5年度 神戸市いじめ問題対策連絡協議会 委員名簿 | P 1 |
| ・令和5年度 第1回神戸市いじめ問題対策連絡協議会 座席表 | P 2 |
| ・神戸市いじめ問題対策連絡協議会 開催要綱 | P 3 |
| ・神戸市いじめ問題対策連絡協議会 施行細目 | P 5 |
| ・神戸市いじめ問題対策連絡協議会 傍聴要領 | P 6 |

別 紙

- ・令和4年度 児童生徒の生徒指導上の諸課題に関する状況について〈概要〉

令和5年度 第1回神戸市いじめ問題対策連絡協議会 議事要旨

日時：令和5年11月15日（水）9：00～11：00

場所：神戸市総合教育センター701

1. 開会

- ・本委員会は、本市のいじめ防止等に関係する機関及び団体の連携を図り、いじめ防止対策について幅広く意見を求めることを目的としている。
- ・「令和4年度 児童生徒の生徒指導上の諸課題に関する状況」について説明する。
- ・いじめ未然防止、早期発見・早期対応について助言をお願いしたい。

2. 委員紹介・委員委嘱

3. 委員長あいさつ

- ・神戸市のいじめ対策について、専門的な見地から忌憚のない意見をお願いしたい。
- ・国の全体的な流れとして、いじめの認知件数が増加していることは評価できるが、重大事態の増加が喫緊の課題である。
- ・いじめの未然防止や人権意識を高められるような日常的な教育活動による働きかけを充実させ、いじめのない社会をつくることが求められている。

4. 協議・説明事項

(1) 本市のいじめ問題についての概況

○令和4年度児童生徒の生徒指導上の諸課題に関する状況についての説明（事務局）

〔協議〕

○いじめ重大事態について

- ・深刻な課題と事務局でも捉えており、いじめを認知した後に重大化に至らないように取り組んでいく。
- ・初期対応やアセスメントの徹底が重要になる。
- ・政令指定都市の比較があると、より分かりやすく深い議論になる。
- ・必ずしも都市部が重大事態の発生件数が多いとは限らない。
- ・加害児童生徒の保護者への報告の割合が、全国が低い中、神戸市は高いことは評価できる。

○アンケートによる発見の割合について

- ・アンケートの精度を高めていくことが必要。
- ・いじめがいつどこで起きたかなど、具体的に詳細に聞くことも有効な手立ての一つ。
- ・アンケートは、学校が子供たちのSOSを受け止めようとしていることを示すことになるため、頻度を増やすことも有効である。
- ・神戸市では、少なくとも学期に1回アンケートを実施しているが、学校の状況によって、それ以上実施することもある。
- ・1人1台端末を利用したアンケートの実施も考えられる。

○その他

- ・お困りごとポストやその他の相談窓口等によって、重大化が防げた事例等があればわかりやすい。
- ・SNS相談によって、希死念慮を訴えた子供を特定し、未然に防いでいる事案もある。
- ・事務局で可能な範囲でかまわないので、関係機関と連携し、相談窓口の状況を集約してほしい。

(2) 本市のいじめ問題への取組

○いじめ未然防止の取組紹介及び説明（事務局）

〔協議〕

○いじめ防止フォーラムについて、

- ・子供たちが作成したポスターは、1人1台端末の壁紙等いろいろな場面で活用していきたい。
- ・作成した動画を、いじめ未然防止学習の教材にしていくことはできないか。

○取組にあたってどのような視点が必要か。

- ・教師ではなく子供たちが主体的に活動するいじめ未然防止の取組を考えている。
- ・ロールプレイ等でいじめを見た子供の視点を取り入れてはどうかと考える。
- ・SNSトラブル未然防止について、親子で考える事業を進めている。
- ・保健師と命の感動体験の取組を行った際、子供たちに命の大切さを実感させることができた。
- ・人の気持ち、自分の気持ちに気づく、表現する力をつけてほしい。
- ・いじめはその時だけではなく、将来にまで影響することを意識してほしい。
- ・学校では、命の大切さに気付く指導を心がけており、ソーシャルスキルの取組を推進している。
- ・未然防止を重視しており、そのために自己肯定感や自己存在感を養う取組が重要である。
- ・人材育成が重要であり、教員のいじめ等に気付いて支える力を向上させることが課題である。
- ・子供たちが安心して話せる環境が必要であり、自分の気持ちを話すことができない状況にいる子供たちが、なぜ言えないのか、どうすれば言えるのかを考えていく必要がある。
- ・学校現場（教員）に時間、気持ちのゆとりが必要である。
- ・児童虐待防止の視点が、いじめ未然防止にもつながるのではないかと考える。
- ・いじめ対応における神戸市の強み（家庭訪問等）をさらに推進することも大切である。
- ・道徳、学活等、他教科との関連も踏まえて、学習案を作成するとより効果的である。
- ・SNSの普及に伴い、子供たちは人にどう見られるかということに敏感になっており、そのことが原因で不登校も増えている。
- ・幼い頃から安心して対話ができる環境が大切であり、子供たちが主体的にコミュニケーション能力を高められる学習が大切である。
- ・チーム担任制の取組等、子供たちが様々な教員と関われる機会を設けることが大切である。
- ・学校に相談したが対応してくれないという相談がある。1対1だと対立しやすい面があるため、第三者の視点を取り込むことが大切である。

5. 委員長総括

- ・子供が発信できる回路を学校内外に用意することが大切である。
- ・SNSの中でのいじめが重要な課題であるため、いじめ未然防止学習にSNSによるいじめを題材に取り上げる必要がある。また、就学前から保護者へSNSの使い方等の働きかけが必要である。
- ・理不尽なことが罷り通らない社会を作っていくため、大人が子供たちのSOSを受け止められる存在になるとともに、子供たちがSOSを出せる社会や学校にしていくことが大切である。

6. 事務連絡

- ・第2回の連絡協議会の日程について（3月開催予定）

7. 閉会